

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	6	学 校 名	浜松聴覚特別支援学校	校 長 名	藤田 延江
------	---	-------	------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況		評価	成果と課題
いきいき	互いを認め合い、自他を大切に する気持ちを育む指導の充実	・幼児児童生徒は、相手の意見を受け止め、自分の考えをもち、伝え合うことができる	職員評価 AB 100%	児童生徒評価 AB 100%	A	○朝の会での話し合いや異学年間での対話的な活動など意図的に活動の場を設定することで、相手の考えを聞いてから自分の考えを伝えることができた。 ○定期的に人権教育を学校全体で行ったことで、自他を大切に する気持ちが育ちつつある。
		・教職員は、異なる考えも受け止め、互いの意見を交換し、学び合 うことができる。	職員評価 AB 100%	AB 82.3%	A	○日常的に子どものあらわれや課題を共有し、教員同士で意見を出し合ったり、協力したりしながら指導を進めることができた。 ○互いの意見を尊重しながら自由に意見を交換できる雰囲気ができ、皆で切磋琢磨できた。
	安全・安心な生活を送るための環境、体制づくり	・幼児児童生徒は、自分の命を守る方法が分かり、安全に生活が できている。	職員評価 AB 100%	児童生徒評価 AB 90%	A	○交通安全意識は定着し、交通ルールを守った歩行（登下校や校外学習）ができた。 ○予告なし、管理職が不在等を想定した訓練を実施することで子どもや教職員が安全な避難方法を考えることができた。 △実効性のある訓練の継続 △危機管理マニュアルの改訂と周知
		・教職員は、命を守るための方法を理解し、緊急時に備えることができる。	職員評価 AB 100%	保護者評価 AB 94.1%		
		・寄宿舎生は、他校の舎生とも意見を交流させながら話し合いを進め、自分の役割を果たすことができる。	職員評価 AB 100%		A	○行事の企画では、互いに必要な配慮事項等を確認しながら話し合いを進め、当日の運営では自分の役割を果たし、皆が楽しむことのできる行事をつくりあげた。
		・幼児児童生徒は、自分に必要な保健目標が分かり、その達成に向けて生活を送ることができる。	職員評価 AB 96.5%	児童生徒評価 AB 85.7%	B	○保健目標を自分で決めたことで目標を意識した具体的な行動に繋がった。 △姿勢づくりを重点目標にした活動を実施。

様式第 3 号

		・幼児児童生徒は、静岡県や世界の食文化を知ったり、食事のマナーを身に付ける必要性を理解したりすることができている。	職員 評価 AB 100%		A	○デフリンピック（ブラジルなど）や地域の食材を使った料理の提供や食堂内の掲示の工夫により、県や世界の食材や料理に興味関心を持つことができた。
		・学校経営予算の計画的な執行により、各分掌等への配当予算の執行率が 12 月末時点で 80%以上となっている。	職員 評価 AB100%		A	○計画的な執行により、各分掌等への配当予算の執行率が 12 月末時点で 80%以上となった。 △関係部署と連携し、効率的な予算執行を図る。
わくわく	一人一人の言語力の獲得と、伝え合い、学び合える授業づくり	・ 教職員は、聴覚障害教育の基礎基本をおさえた支援が行え、全ての幼児児童生徒が「分かる」授業ができている。	職員 評価 AB 92.9%	保護者 評価 AB 83.3% 児童生徒 評価 AB 95%	A	○目的意識をもった授業公開による研修や「傾聴態度」の指導に重点を置いた実践により、「分かる」授業づくりに繋がった。 △聴覚障害教育の基礎基本の継承の継続
		・ 教職員は、幼児児童生徒が自ら考え、思考を深めるための ICT 機器の効果的な活用ができている。	職員 評価 AB 93.1%		B	○各種学習会や校内実践共有により、生成 AI などの新たな ICT 活用に挑戦する教員が増え、授業づくりに活かすことができた。 △ICT を活用した授業実践を積み重ね、思考を深め有効活用を共有する。
		・教職員は、OJT による研修や授業を見合うことにより、互いに学び合うことができている。	職員 評価 AB 96.5%		A	○授業公開（動画視聴含む）、グループ協議により、授業展開や発問等の学びや授業改善に繋がった。 ○他園との交流活動を通して、遊びの広がり意識したり、子どもの課題を把握したりすることができた。 △計画的な 1 人 1 授業の実践と事後研修の充実。
		・教職員は、学習会をとおして聴覚障害教育を理解し、指導技術を向上することができている。	職員 評価 AB 100%		A	○3 豊研修会や外部講師を招聘した研修を通して、授業づくりや聴覚障害教育についての専門性向上につなげることができた。 △次年度も継続していく。
しなやか	ニーズにこたえるセンター的機能の充実	・ 関係機関からの情報と実態把握を基に個々のニーズに応じた支援ができている。	職員 評価 AB 100%	在籍校 評価	A	○通級生、乳幼児教室に通う乳幼児の課題を知り、支援を共有することができた。 ○訪問支援を通して、難聴理解

様式第3号

		・研修会や訪問支援を ととして聴覚障害につ いての理解啓発ができ ている。	職員 評価 AB 100%	AB 100%		が深まることで、在籍校（園） 教員の授業や日頃の支援の仕方 の変容に繋がった。 △ICT を活用した在籍校教員と の共有を始め、在籍校教員が児 童生徒支援により役立てるよう な理解啓発を図る。
自分らしく生 きるための関 係機関との連 携強化		・デジタルプラットフ ォームの運用開始が、 計画どおりにできて いる。	職員 評価 AB 92.9%	保護者 評価 AB 97.1%	A	○3学期には、保護者が閲覧を することができた。 △本格的なデジタルプラットフ ォーム運用。
		・個別の教育支援計画 や指導計画を活用し た面談の実施と、共有 すべき支援について 確認し合い指導にい かすことができてい る。	職員 評価 AB 100%		A	○個別面談後の共有すべき支援 について学部教員間で共有し、 共通理解の上で指導に生かすこ うができた。 △生成AIを活用した個別の指 導計画作成に着手する。
		・系統性のあるキャリ ア教育プログラムの 作成ができています。	職員 評価 AB 100%		A	○キャリア教育プログラムを作 成し学校全体で共有・検討が進 んだ。 △プログラムに沿った取組推進 とキャリアパスポートの見直し を図る。
		・幼児児童生徒の生活 経験が広がり、自分ら しく生活を送ること ができています。	職員 評価 AB 96.5%		A	○学校間交流、交流籍交流、校 外学習等での経験により、学習 や自己理解が深まり、幼児児童 生徒の興味関心の広がりや生活 の充実に繋がった。 △学習目的にせまる、地域資源 を活用した学習をさらに実践す る。
		・家庭や関係機関と連 携し、自立や社会参加 に向けた話し合いが できています。	職員 評価 AB 96.5%		A	○子どもの課題や保護者の悩み について、両親教室や保護者面 談等を活用して保護者が関わり 方を学んだり、解決策を話し合 ったりしながら、課題解決に向 かうことができた。また、新た に医療機関や支援機関と繋が ったケースもあった。
		・幼児児童生徒は、デ フリンピックに向けた活 動に主体的に活動す ることができている。	職員 評価 AB 100%		A	○学習や交流を通して、自分自 身の夢や身近な目標をもち生活 をする児童生徒もいた。 ○通級生や乳幼児教室の親子が デフリンピックについて興味を もち、デフリンピック会場やイ ベントに出向いて、応援する生 徒がいた。